公民館情報

ねっとわーく

11 月号
No. 166

特色ある公民館活動



ホタル川での清掃活動〈福岡市〉



和気あいあい陶芸風景〈遠賀町〉



鬼火焚きの様子〈東峰村〉



万華鏡づくりの様子〈苅田町〉

市町村のページ〔特集：特色ある公民館活動〕
・地域の特色の一つ、ホタル・ワサビの保護・保全　福岡市脇山公民館 ……P1
・夢中になるっておもしろい！「夏休みわくわく教室～親子陶芸体験教室」　遠賀町中央公民館 ……P2
・「伝統の継承と BRT 沿線整備で深める地域の絆」　東峰村 岩屋自治公民館 ……P3
・「モノづくりのまち」苅田町で、ワクワクを形に！～苅田モノづくり LABO～　苅田町立中央公民館……P4
こちら県公連
・第７１回福岡県公民館大会報告 ……P5

発行　福岡県公民館連合会



地域の特色の一つ、ホタル・ワサビの保護・保全

福岡市脇山公民館

【地域の概要及び経緯】

脇山校区は面積が35.36㎢で、福岡市の約1/10、早良区の約1/3を占める広大な校区です。周囲を山に囲まれ、約9割を山林と農地が占め、きれいな水や空気、豊かな緑、そして美しい星空など、大都市にありながら自然環境に恵まれています。また、昭和3年、昭和天皇即位の大嘗祭にあたり、献上米の栽培地となった「主基斎田」の地でもあります。

こうした環境のもとで取り組んでいるホタルの保存とワサビ栽培について紹介します。

【活動内容】

１　ゲンジボタルの保存

脇山小学校では全国でも珍しく、敷地内を流れる川を利用し、小学生と地域住民が協力してゲンジボタルの保存活動を行っています。

最初は飼育箱を利用していましたが、令和元年に川の流れに変化をつける取組を行い、これを機に人工飼育から自然の中（川）でのゲンジボタルの保存に切り替えました。

毎年、小学校で児童にホタルの一生について話をしており、令和６年、７年には川や川べりの清掃を行いました。



【ホタル川での清掃活動】

２　ワサビ栽培

昔は山にワサビが多く自生していて、昭和の大嘗祭の際には献上米とともに納品されました。そこで「ワサビ田再生プロジェクト」と銘打って、地域の方や九州工業大学の学生とともにワサビの栽培活動を行っています。

地域の方の山を借りてワサビの苗を植え、管理し、大学ではワサビの栽培に適した条件を科学的に検証してもらいながら、毎年購入した苗を２００本近く植えています。

昨年、岐阜大学の先生から、産地が違う苗を栽培するのではなく、現地に自生しているワサビを増やすことが大事であるという話を聞き、今年は種を採取して育苗から挑戦しています。



【ワサビの苗の植付け】

【成果と課題】

- 小学校の敷地を流れる川でゲンジボタルの幼虫や、成虫となって飛ぶ姿を見ることができるようになりました。今後も川の生態系に学びながら、年々変わる河川状況をホタルの生育に適した状態に戻す取り組みも含めて継続していこうと考えています。
- 試行錯誤を繰り返しながらもワサビ栽培地を広げています。購入したワサビ苗と自生のワサビが混在しないように別々の場所で育てていく予定です。種から育苗する挑戦がうまくいくかどうか楽しみです。

【問合せ先】　福岡市脇山公民館
〒811-1111　福岡市早良区脇山２４７４－４
TEL　０９２－８０３－１８１５　FAX　０９２－８０３－２４７７

夢中になるっておもしろい！「夏休みわくわく教室～親子陶芸体験教室」

遠賀町中央公民館

【地域の概要及び経緯】

福岡県の北東部に位置する遠賀町は、町に一級河川の遠賀川が流れる、水と緑に恵まれた町です。町内には、地域住民の交流や生涯学習の拠点となる５つの公共施設があり、特色を生かした様々な活動が行われています。今回の講座を開催したふれあいの里は、宿泊可能な研修センターや麺・パン工房、陶芸室を備えた複合施設で、幅広い世代に地域活動や各種講座の交流の場としても利用されています。

【活動内容】

「夏休みわくわく講座」は、町内３校の異学年交流を含め思い出作りや課題のお手伝いをする、小学生を対象とした公民館講座です。特に子どもたちが夢中になったのは、親子８組 18 名が参加した「親子陶芸教室」です。講師は、有志ボランティア団体の陶芸クラブの皆さんにお願いし、７月 26 日にふれあいの里にて開催されました。初めて見る道具を前に、講師の説明を聞く姿勢は真剣で、初めは粘土を恐る恐る触っていた子どもたちも要領を得た後は意気揚々とし、一気に会場が賑やかになりました。親子で泥んこになりながら思い思いの作品を作る様子に会場中から笑顔が弾け、「上手にできた」「またやりたい」など嬉しい声が飛び交いました。ようやく訪れた８月 25 日の窯出しには早朝にも関わらず、たくさんの親子が訪れ、大事そうに持ち帰る姿に、ものづくりの楽しさ、物を丁寧に扱う大切さを学んだ様子も見てとれました。

開講前には陶芸室のエアコンが故障し、炎天下の中、館内の会議室へと大移動するハプニングに見舞われました。大きな道具や重たい粘土を何往復もして運んでくださった陶芸クラブの皆さんには感謝するばかりです。高齢化で有志ボランティアさんが減少していく中、一致団結和気あいあいがモットーの陶芸クラブさんには、今後も地域を明るく照らす活動を長く続けていただけると嬉しいです。



【和気あいあい陶芸風景】



【完成した作品】

【成果と課題】

親子での陶芸体験を通じて、交流を深め、ものづくりの楽しさや達成感を味わう機会となりました。今後は、設備の事前確認や運営負担の軽減を図り、継続して開催できる体制づくりが課題です。

【問合せ先】遠賀町中央公民館
〒811－4392　　福岡県遠賀郡遠賀町今古賀 513
ＴＥＬ　093-293-1326　ＦＡＸ　093-293-5533

「伝統の継承と BRT 沿線整備で深める地域の絆」

東峰村 岩屋自治公民館

【地域の概要及び経緯】

東峰村は、福岡県中央部の東端にあって、豊かな自然環境に育まれた地域の特色を活かした持続可能な村づくりを進めています。村内には、中央公民館の性格を持つ東峰村公民館と 14 の自治公民館が連携しながら、公民館運営を行っています。今回は宝珠山地域にある岩屋自治公民館の取組を報告します。

【活動内容】

岩屋自治公民館は、２８世帯で構成されており、住民の半数が高齢者という地域ですが、公民館長や体育主事、区長等で組織された自治公民館役員を中心に、伝統を引き継ぎながら、より良いコミュニティづくりを目指した取組を行っています。

① 「BRT 筑前岩屋駅周辺整備」

平成 29 年九州北部豪雨災害で被災した JR 日田彦山線の被災区間を復旧するため、「BRT ひこぼしライン」が開業されました。

その BRT ひこぼしライン沿線の景観を守るため、岩屋地区の住民による法面のツツジの下草刈り活動を行っています。来村者の目を楽しませる美しい眺めと、地域の貴重な財産を維持するための大切な取組です。参加した地域住民のおかげで沿線がすっきりと美しく整いました。



【写真１：ツツジ下草刈りの様子】



【写真２：鬼火焚きの様子】

② 「鬼火焚き」

新年の１月３日には、地域恒例の伝統行事が行われます。年末から地域のみんなで協力し、竹や木材を使ってやぐらを組み立てて準備を進めます。

当日は、無病息災と家内安全を祈願して大きな炎を囲み、地域住民はもちろん、帰省された方々など多くの人が集まります。燃え上がる炎を囲みながら、子どもからお年寄りまで世代を超えて賑やかに交流を楽しむ、あたたかなひとときとなっています。

【成果と課題】

高齢化が進む中、BRT 沿線周辺の美化活動や鬼火焚き等の伝統行事を継承し、世代間交流と住民の連帯感を深めた点が地域活力の維持につながりました。一方、役員の負担増や参加者の固定化が進んでおり、持続可能な運営体制の構築と若年層の参画が今後の課題です。地区の皆さんの協力を得ながら、さらに魅力あふれる公民館となるよう努力したいと思います。

【問合せ先】　東峰村公民館
〒８３８－１７９２　　福岡県朝倉郡東峰村大字宝珠山 6425 番地
ＴＥＬ　0946-72-2301　ＦＡＸ　0946-72-2302

「モノづくりのまち」苅田町で、ワクワクを形に！
～苅田モノづくり LABO～

苅田町立中央公民館

【地域の概要及び経緯】

苅田町は、北九州市と行橋市との間に位置し、周防灘に面した人口約３万７千人の町です。臨海部には苅田港を中心に広大な工業地帯が広がり、自動車・セメント・電力などの産業が集積する「モノづくりのまち」として発展してきました。また、北九州空港や東九州自動車道など、陸・海・空の交通網にも恵まれています。

そんな苅田町の「モノづくり」を、子どもたちにも身近に感じてもらいたい。その思いから、子どもたちが実際に手を動かし、つくる楽しさや、創造する喜びを体験できる「苅田モノづくり LABO」を実施しました。また、学生ボランティアが企画・運営に加わることで、子どもたちの学びだけでなく、学生自身の成長や地域とのつながりを生み出すことも目指しました。

【活動内容】

令和７年 11 月 30 日に「あつまれ！モノづくりの森♪」を開催しました。会場には、トヨタ自動車九州株式会社による「トヨタモノづくり」をはじめ、「しおりづくり」「万華鏡」「スライム」「プラバンキーホルダー」「リメイクアート」の６つのモノづくり体験ブースを設置しました。

参加した子どもたちは、興味のあるブースを自由に回り、学生ボランティアや企業の方と交流しながら、様々なモノづくりを体験しました。７名の学生ボランティアは、企画から当日の運営まで主体的に参加し、子どもたちへの声掛けや体験のサポートを担当しました。子ども・学生・地域企業・公民館が一つとなり、「つくる」を通して世代を超えた交流が生まれました。



【万華鏡づくりの様子】



【トヨタモノづくりの様子】

【成果と課題】

子どもたちからは、「いろいろなモノづくりが体験できて楽しかった」「また参加したい」といった声が寄せられました。自分で考え、作品を完成させる中で、モノづくりの楽しさや達成感を味わうことができました。また、学生ボランティアの方々にとっても、企画や運営、子どもたちへの声掛けやサポートを通して、自ら考えて行動する力や協調性を育む機会となりました。

今後は、今回の体験をきっかけに、子どもたちや学生の「やってみたい」という気持ちを大切にしながら、地域との連携を生かした継続的な学びや交流の機会を広げていきたいと考えています。

【問合せ先】　苅田町立中央公民館
〒800－0351　　福岡県京都郡苅田町京町２丁目５番地
ＴＥＬ　093-436－0061　ＦＡＸ　093－434－0456

第71回福岡県公民館大会報告

【県大会テーマ】 「公民館の未来を創る～不易と流行の視点から多世代の参画を目指して～」

1 概要

令和8年8月7日（金）、田川文化センターにおいて、第71回福岡県公民館大会を開催しました。

大会には、県内各地から公民館・市民センター・コミュニティ施設関係者や社会教育関係者など約600名の方々に御参加いただきました。

本大会では、急速な社会変化や地域の担い手不足といった課題に対し、公民館が果たすべき役割を再確認するとともに、若者を中心とした多世代が参画するための具体的な環境・土壌づくりについて学び、今後の取組に生かしていただくことを目指しました。

2 開会・記念式典

大会では、地元の県立田川高等学校の生徒11名に、司会進行や受付補助をお願いしました。若さあふれる爽やかなアナウンスと丁寧な対応に、会場全体が温かな空気に包まれ、参加者からは「ひたむきな姿に元気をもらった」、「堂々とした素晴らしい司会進行に深く感動した」といった称賛の声が寄せられました。



大会式典では、御来賓の田川市長 浦野 仁 様から御祝辞を賜り、表彰式では、長年にわたり公民館活動の振興に顕著な御功績があった36名と1館に対し、福岡県公民館連合会から表彰を行いました。受賞者の皆様のこれまでの地域における、住民同士の絆を深め、学びと交流の場を育むための多大なる御尽力と御功績に対し、心から敬意を表するとともに、今後ますますの御活躍を祈念いたします。



3 実践発表

「大学生×市民センターによる共創プロジェクト」

発 表 者 ： 北九州市長行市民センター 館長 鷹取 貴美子 氏
北九州市立大学 3年 井上 実優佳 氏
北九州市立大学 3年 川畑 光麗 氏

北九州市が北九州市立大学と連携して行っている共創プロジェクトについて、長行市民センターの事例を御発表いただきました。

長行市民センターの鷹取 貴美子館長からは、授業の一環として実習に訪れた学生たちに対し、いかに「また来たい」と思ってもらえるような関係性を築くか、そのためにどのような準備や土壌づくりが大切かについての実践を語っていただきました。また、学生からは、授業が終わった後も市民センターに関わり続けている理由や、地域の方々との触れ合いの中で芽生えた感情などについて、率直な想いを語っていただきました。

双方の非常に貴重な実践発表からは、今後の公民館運営において若者を中心とした多世代の参画を目指すための、大きなヒントと学びを得ることができました。





【実践発表の様子（上：鷹取館長、下：川畑さん・井上さん）】

4　インタビューダイアローグ

「本音でトーク！若者が語る公民館」

登　壇　者　：　北九州市長行市民センター　館長　鷹取　貴美子　氏
北九州市立大学　3年　井上　実優佳　氏
北九州市立大学　3年　川畑　光麗　氏
弓削田地区文字山団地公民館　館長　平畑　尚史　氏
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ　：　飯南町公民館協議会　赤名公民館　主事　景山　良一　氏

インタビューダイアローグでは、実践発表者の3名に加え、地元の自治公民館を代表して弓削田地区文字山団地公民館の平畑　尚史　館長に御登壇いただきました。さらに、本大会の講師でもある飯南町公民館協議会赤名公民館の景山　良一　氏の進行のもと、多角的な視点から議論を深めました。

実践発表を掘り下げていく中で、学生2人が「実習後も公民館に関わり続けたい」と思う背景には、活動を通した「楽しさ」や「地域との深いつながり」があることが語られました。そして、その温かなつながりと主体的な参画は、実習生の受入れに際した鷹取館長の周到な「土壌づくり」の賜物であることが改めて語られ、公民館運営における多世代参画の大きなヒントを得る時間となりました。

参加者からは、「受け入れる側の目的の明確化や、安心感を生む空気づくりの重要性がよく分かった」、「学生の生の声を聴くことで、自地域における若者参画の参考になった」との声が多数寄せられ、世代を超えた協働のあり方を深く見つめ直す有意義な機会となりました。



【インタビューダイアローグの様子】

5　講演

「おもわず“集まりたくなる”環境・土壌づくり」

ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ　：　飯南町公民館協議会　赤名公民館　主事　景山　良一　氏

島根県飯南町公民館協議会　赤名公民館　主事　景山　良一　氏に「おもわず“集まりたくなる”環境・土壌づくり」というテーマで講演していただきました。

参加者を巻き込むワークショップ形式や、思わずハッとさせられる「思い込みや思考のクセ」に気づくプログラムは、会場全体に大きな一体感と活気をもたらしました。「楽しさ」や「つながり」が生まれる瞬間を体感できる内容であり、まさに「集まりたくなる」ための実践的な示唆が随所に散りばめられていました。また、自身の豊富な実践経験に基づき、硬くなりがちな会議や講座のやり方を変え、住民が主体的に動き出すための「環境・土壌づくり」の極意をユーモアと熱意あふれるトークで展開されました。

参加者からは、「『ちょっとした工夫』や『意図的な仕掛け』で、これほど場の雰囲気が変わり、人が集まるようになるのだと目からウロコが落ちた。」、「同規模の自治体でも、取組次第で現状は変えられる。一歩踏み出す勇気をもらった。」といった声が多数寄せられ、今後の公民館活動へ大きな勇気とアイデアをいただきました。



【講演の様子（景山氏）】

5　今大会の成果と次年度に向けて

本大会を開催するに当たっては、開催地の田川市をはじめ、筑豊地区の皆様の御尽力により盛会裏に終えることができました。心より感謝申し上げます。来年度は、京築地区での開催を予定しています。皆様からのアンケートの結果等を参考にさせていただき、さらに実り多き大会となるよう改善に努めて参ります。今後とも公民館活動の充実・振興のために御協力いただきますようお願いします。